

## カップリング・インターンシップ 2020 年度全体最終報告会の実施

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門

特任准教授 勝又 美穂子、特任講師 橋本 智恵

2021年2月24日(水)に、2020年度オンラインカップリング・インターンシップ(CIS)全体最終報告会を開催しました。本年度は、新型コロナウイルスの影響により、CIS実施4か所全て初となるオンラインでの実施となりました。

報告会には、当研究所の関係教員の他、言語文化研究科の教員及び、経済学部から合わせて26名の参加となりました。

報告会ではまず、本年度のCISにおける参加学生の努力への敬意、そして本会を学びの復習の場として活用して欲しいとの当研究所の西川宏教授からの開会の言葉に続き、ベトナム(IHI インフラストラクチャーアジア)、ミャンマー(J&M スチールソリューションズ)、インドネシア(チレゴンファブリケーターズ)、タイ(OTC ダイヘンアジア)、の4か所からそれぞれ15分ずつの発表を行いました。各発表は、活動概要、CISで取り組んだ課題への提案内容、各自の学びなどが完結にまとめられており、充実した報告でした。企業プログラムを通じグローバルで活躍する企業につい

ての新たな学びがあったことは勿論ですが、CIS全体を通して「チーム活動において、お互いのことを知ろうとする努力が重要であることを学んだ」、「言語以外での意思疎通や情報伝達の方法を見つけ出せた」、「チームメンバーの共通認識の大切さを実感した」など、様々な学びや気づきが報告され、成長した学生の姿を見ることが出来ました。当研究所の菅哲男客員教授からは「討議の内容、テーマの提案等対面のCISに劣らない立派なCISだった。学生は色んな壁を逃げないで乗り越えられた」との締めくくりの言葉がありました。本年度のCIS実施形態は大きく変更になりましたが、学生の成長を見ると、学びの機会を止めることなく提供し続けることの重要性を改めて感じました。CISの活動は、受け入れ企業の多大なるご支援、そして学生を派遣して頂く海外大学との連携で成り立っています。沢山の方々のご理解とご支援により成り立っているCISだからこそ、参加学生が自らの学びを振り返り、咀嚼し、次へつなげていく意義のある会となりました。

